

音楽療法のエビデンスを求めて－基礎と臨床をつなぐ実践－

奥村 由香（中部脳リハビリテーション病院・中部療護センター リハビリテーション技術部）

社会の中で『音楽療法』が広く認知されるには、当事者・支援者の方々の声とともに、『なぜ音楽なのか』を示していくことが必須であることはご承知の通りです。私たち音楽療法士は、どのようにエビデンスを構築していけばよいのでしょうか。私は、クライアントのニーズに対して、ある種の音楽活動が療法として機能することを証明しつつ、それを役立てていただけるようにクライアントを取り巻く組織（チーム）に働きかけることを、常に繰り返すことだと考えます。本講座では、こうした考えをベースに、脳リハビリテーションという枠組みの中で実践している音楽療法の取り組みの一部をご紹介します。

講座の中では、当院における音楽療法の一連の流れ（クライアントのアセスメント・評価と『これまでの知見』をもとにした仮説、音楽療法の目標と内容の設定、実施の経過と結果、考察と課題）について、具体例を挙げながらお示しします。併せて、こうした音楽療法の臨床や研究内容を、どのように多職種と共有し協働を図ったか、あるいはチームの中で活用してきたか、などについてもお話ししたいと思います。

1人の音楽療法士が、1つの病院で行った、限定的な取り組みによる提言ですが、音楽療法のエビデンス構築を考える上でのヒントとして役立てていただけますと幸いです。

■プロフィール

ヤマハ音楽教育システム講師を経て、1996年岐阜県音楽療法士、1999年日本音楽療法学会認定音楽療法士を取得。高齢者デイケア施設非常勤音楽療法士、岐阜県音楽療法研究所非常勤研究員、星城大学リハビリテーション学部非常勤講師を経て、2004年4月より社会医療法人厚生会に入職、木沢記念病院・中部療護センターに勤務、あじさい看護福祉専門学校非常勤講師を兼務。2022年1月より同法人 中部脳リハビリテーション病院・中部療護センター リハビリテーション技術部（現職）。

その他資格：公認心理師（2021年）、日本心理学会認定心理士（2011年）

著書：医学的音楽療法－基礎と臨床－（共著）、北大路書房、2014

音楽療法カンファレンス（共著）、北大路書房、2015